

## 日本教職大学院協会教育委員会等連携検討委員会(第2回)議事概要

- 1 日時 平成22年12月11日(土) 14時～17時10分
- 2 場所 キャンパス・イノベーションセンター東京(304室/兵庫教育大学東京オフィス)
- 3 出席者 篠原座長, 入澤, 坂野, 山崎, 大野, 岩永の各委員(玉井委員は欠席)  
[アドバイザー: 日向文部科学省教育改革調整官, 早川岐阜県教育委員会教育主管]  
[陪席: 協会事務局/岩佐, 西村]

### 4 議事概要

審議に先立ち, 篠原座長から前回(第1回)検討委員会の検討内容等について確認が行われた。

#### (1) 教職大学院と教育委員会等との連携内容の体系について

- ① 各委員から, 資料に基づき教職大学院と教育委員会等との連携に関する所属大学の現状等について説明が行われた。

[説明項目等]

##### i 教育委員会との連携

###### (i) 学生募集

地元教育委員会からの現職教員の派遣状況等

###### (ii) 教員採用

- ・教職大学院進学者の教員採用試験合格者名簿登載保留措置の有無等
- ・教職大学院修了者の教員採用試験一次試験免除措置の有無等

###### (iii) 修了生の人事・処遇

派遣現職教員の教職大学院修了後の処遇等

###### (iv) 大学院教員人事

実務家教員としての教職大学院への教員派遣交流状況等

###### (v) 組織運営

教職大学院と教育委員会との連携協議組織の設置状況等

###### (vi) 研究開発

共同研究の状況等

##### ii 連携協力校との連携

###### (i) 組織運営

連携組織の設置状況等

###### (ii) 教育実習

実習における連携の状況, 協議組織の有無等

###### (iii) 派遣教員の勤務校との連携

派遣教員の現任校での実習における連携状況等

###### (iv) 研究開発・支援

連携協力校との共同研究, 研究支援の状況等

###### (v) アフターケア

修了生の勤務評価, 支援の実施状況等

- ② 引き続き, 各委員からの現状説明を踏まえ, 教職大学院の課題等について意見交換が行われ, 次のような意見等が出された。

[ストレートマスターと現職教員学生]

- ストレートマスターと現職教員学生の混交にまず無理があつて、その整理が「連携」以前の課題ではないか。インプット・プロセス・アウトプットと整理していかないと。
- 現職教員学生がストレートマスターにいろいろアドバイスしてくれるなど、よい事象もあるように感じる。
- 東京の各大学院では、両者を分けず授業をやっているところのブーイングがひどい。
- 学生評価ではストレートマスターの満足度が低い。どうも教員の授業方法の問題だけではなさそう。
- 鳴門では、どうしても成立しない授業は、分けてやることにしている。
- 兵庫では、共通基礎教育科目でABクラス分けを実施している。ただし、コース専門科目は基本的に混合型になっていて、他大学と同じ課題が意識されている。
- スケールメリットのあるところではそれも出来るが、20人くらいの定員だと厳しい。コストがかかりすぎる。

〔実務家教員の確保等〕

- 実務家教員によっては、ストレートマスターの指導で学校に介入しすぎている場合もあるようである。(メンターに「上から目線」で指導し、よくないプレッシャー)。
- 本学の実務家教員(皆校長経験あるが)は抑制的。校長室に入り浸りしない。
- 理想としては、実務家教授は教職大学院修了者になってくれれば、と考えている。
- 鳴門は、既設大学院の修了生を実務家で招いた。校長経験者は見なしで一人だけである。
- 学校経営の実務家教員の確保は年齢的に難しい。
- 実務家をどういう領域で入れるかがポイントで、大学院の判断が迫られるところと思う。

〔その他〕

- 実務家の確保にしても他の課題にしても、今のやり方だと教職大学院をメインストリームにできないように感じる。普及型を考えないと。
- 制度設計の問題が尾を引いている。
- これまでの既設大学院で大量の現職教育をしてきたが、質がよかつたとは言えない。
- 教育学研究科修士課程との関係も課題と言えるのでは。
- 学内の連携も難しい。

(2) その他

- ① 日向調整官から、資料「審議経過報告(案)」により中央教育審議会特別部会における審議状況等について説明が行われた後、次のような意見交換が行われた。
  - 現中央教育審議会委員の任期が1月31日までであるので、この報告(案)が今期のまとめのたたき案であると理解してほしい。
  - じっくりと検討するにはよい時期であると思う。
  - 教職大学院に関する2月以降の検討の中で、1)教職大学院の在り方、2)免許更新制をどうするか、など方向性を見直す必要がある。
  - これまでを総括する必要がある。
  - 政府が変わっても方向は変わらないようにする必要がある。
  - 部会の議論が教員免許状にシフトし過ぎているように思える。
- ② 次回の専門委員会は、後日調整することとされた。